

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 東京大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program))

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジアの公共政策・国際関係分野における英語による最高水準の学位プログラムを創成することにより大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの優秀なグローバル人材を育成する。

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で英語での教育による交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

①相互で単位あたりの授業時間をもとに換算方法をルール化、②各大学の修了要件を比較、③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる、④学生の一般的な履修モデルを提示する。

○ サマープログラム、言語教育やインターンシップを取り入れ

集中講義形式のサマープログラムやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行い、通常授業以外の分野で学業や実習の充実を図る。

○ 人材育成ニーズに合った教育内容

課題を適切に認識しリーダーシップを発揮できる政策担当者の養成に不可欠な、国際的視野で異なる文化や社会を複眼的に捉え理解するという力や国際的なコミュニケーションの手段として高度に英語能力を高める教育を行う。

(3か国の学生が参加したサマースクール)



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ キャンパス・アジアサマースクールを実施

8月にサマースクールを国内で実施し、東京大学に在籍するキャンパスアジアプログラムの学生15名が参加した。自国の文化や歴史認識に関するディスカッションが繰り広げられ、相互理解を図った。

○ 北京大学とソウル大学校の間でのダブル・ディグリー締結へ

平成27年度に行われたBESETO Joint Meetingでは、北京大学とソウル大学校の間でのダブル・ディグリー実施に向けて交渉が始まり、平成28年度には両校で締結される予定である。

(3大学共同開催のシンポジウム)



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年に派遣を開始し、交換留学を半年ずつ行い、平成25年よりダブル・ディグリー開始した。平成24年から平成27年まで、交換留学生35名、ダブル・ディグリー生10名を派遣し、その他短期プログラムも実施した。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年に受入を開始し、交換留学を半年ずつ行った。平成25年よりダブル・ディグリーも実施し、交換留学生30名、ダブル・ディグリー生25名を受け入れ、その他短期プログラムを実施した。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0 K0	C5 K3	C19 K15	C10 K5	C9 K7
中国(C)での受入	J12 K0	J3 K5	J5 K6	J24 K6	J6 K6
韓国(K)での受入	C0 J13	C7 J19	C10 J8	C9 J27	C10 J7

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

交換留学・ダブル・ディグリープログラムの担当スタッフが募集時から留学中、帰国後まで一貫して教員や先方大学とも連携をとってサポートした。留学前の学生には、単位の履修、認定の手続き等について説明を行い、帰国した学生と派遣前の学生との懇談会などを企画し学生同士での情報交換を促した。

○ 外国人学生の受入れのための環境整備

英語で対応可能なスタッフにより、学術面、渡航準備、渡日後のカウンセリング、交換留学やダブル・ディグリーの単位認定に関する相談など、きめ細かなサービスを提供した。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ 3大学共同開催のシンポジウム、学生によるトークイベントを実施

平成27年12月に3校共同開催のシンポジウムを東京大学で実施し、日英同時通訳を取り入れて学内外問わず一般に向けてキャンパス・アジアプログラムの成果を報告するとともに、周知活動を行った。また、キャンパス・アジアプログラムの学生を主体として、他大学の学生を巻き込んだ一般公開型のトークイベントを開催し、日中韓に関する理解を広める活動を行った。